

伝統文化の継承を

平和を祈りながら舞う神楽舞です。
今後の課題は舞姫の減少である。

(千国諏訪神社)

「浦安の舞」は皇紀2600年を奉祝した神前神楽で
昭和天皇の御製「天地の神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに波たたせぬ世を」
「浦安」とは「心安らか」という意味

27年度決算監査報告抜粋……………②

9月定例議会 村長提出議案……………③

9月定例議会 請願・陳情／議員発議……………④

総務・経済委員会活動報告……………⑤

一般質問「加工・貯蔵施設等の整備事業は」など村政を問う……………⑥～⑪

わたしのひとこと(石川 千朗さん・宮嶋 朱美さん)……………⑫

27年度 決算監査報告抜粋

代表監査委員 中川 文男

審査の結果 決算書、諸帳簿等および、基金の運用は、適正であると認めた。

予算執行について 村税の滞納繰越額が2億円近くあり、適正に処分されたい。飲料水供給施設使用料の収入未済額に対策を講じられたい。

事業の執行は、全庁的に取り組むなど、より効率的・効果的に努められたい。

国保特別会計 収入未済額が減少したが、未済額解消に努められたい。

積立金が保有額に達しているため、保険料の改定を検討いただきたい。

簡易水道特別会計・公共下水道特別会計・農業集落排水特別会計

収入未済額の解消に努められたい。

その他 「おたり振興公社」と「道の駅おたり」は村が全額出資し、それぞれ重要な役割を担っている一方、特におたり振興公社は健全な経営が維持されるように、村としても経営状況等を常に把握し、適切な関与を行うことが必要と思われる。

27年度決算書に対する主な質疑・説明等

問・説明事項	回答・説明
[一般会計]	
● スポーツ振興基金等の見直しは。	◆ 設立時の計画・経過を踏まえ、検討が必要と考える。
● 小学校トレーニングルームを健康増進施設に。	◆ 検討する。
● 生育調査中のスナゴケの今後は。	◆ 28年度が調査最終年。事業化の面で難しい。
● 村営バス利用減の分析は。	◆ 児童・生徒の減少が大きな要因と考える。「小さな拠点事業」で再構築を含め検討する。
[特別会計]	
● 国保診療所、診療報酬引き下げの影響は。	◆ 影響あり。ジェネリック薬使用等で工夫している。
● 国保診療所、訪問診療の回数は。	◆ 毎月第一金曜日に対応、やや増加している。
● 簡易水道、離村した人の滞納金は。	◆ 転出先へ通知・電話等で納入をお願いしている。
● 農業集落排水、未納金の新たな徴収策は。	◆ 職員の体制も含め、検討する。

27年度一般会計、特別会計決算

(千円以下四捨五入)

会計区分	歳入	歳出	概要
一般会計	53億 821万円	51億5,162万円	震災関連、公民館耐震化、Wi-Fi設置、ふるさと寄付等で、全年比26%増
国民健康保険特別会計	4億3,613万円	4億2,580万円	拠出金、交付金が大幅増
国保診療所特別会計	8,738万円	8,732万円	診療収入が前年比8%程減
簡易水道特別会計	2億2,916万円	2億2,613万円	災害復旧、基幹改良事業で90%増
公共下水道特別会計	8,662万円	8,633万円	歳入は使用料等、歳出は事業費等増
農業集落排水特別会計	7,755万円	7,717万円	改修工事減により歳入・歳出共減
後期高齢者特別会計	3,463万円	3,456万円	前年同様

9月定例議会 村長提出議案

件名	内容	議決結果
損害賠償の和解並びに額を定めることの報告	除雪作業中の電柱破損に伴う賠償。 相手：中部電力(株)、東日本電信電話(株)	承認(全員賛成)
工事変更請負契約締結の専決処分報告	村道梨平線道路復旧工事 減額91万8千円 相手：(株)鷺沢建設	承認(全員賛成)
工事変更請負契約締結の専決処分報告	村道坪の沢入線道路復旧工事 減額62万6,400円 相手：(株)松田建設	承認(全員賛成)
村防災会議条例の一部を改正する条例	陸上自衛隊自衛官を防災会議に加える改正	可決(全員賛成)
村福祉医療費給付条例の一部を改正する条例	児童扶養手当法施行令改正に伴う改正	可決(全員賛成)
一般会計 補正予算(第4号)	1億7,800万円を追加 総額59億8千万円 交付税等増額に伴い基金からの繰入を減	可決(全員賛成)
国保特別会計 補正予算(第1号)	980万円を追加 総額4億5,530万円 繰越金確定に伴い診療所への繰入等増	可決(全員賛成)
国保診療所特別会計 補正予算(第1号)	240万円を追加 総額9,440万円 年金改正に伴う人事管理費等の増	可決(全員賛成)
簡易水道特別会計 補正予算(第2号)	440万円を追加 総額2億7,290万円 戸石災害復旧工事等で増	可決(全員賛成)
特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例	村長、副村長が管理監督責任を負い、減給処分(10% 3か月)	可決(全員賛成)
工事変更請負契約の締結	伊折水路災害復旧工事 増額1億5,614万6,400円 相手：(株)鷺沢建設	可決(全員賛成)
工事変更請負契約の締結	柵池ビジターセンター改修工事 増額1,037万8,800円 相手：(株)鷺沢建設	可決(全員賛成)
工事請負契約の締結	中土簡水導水管布設替工事 金額：7,500万6,000円 相手：(株)松田建設	可決(全員賛成)
平成27年度歳入歳出決算の認定	*詳細は2ページ	可決(全員賛成)
教育委員会 委員の任命	太田 加代さん(柵池)を再任 平成28年10月21日より3年間	可決(全員賛成)

9月定例議会議案に対する主な質疑・説明等

問・説明事項	回答・説明
[補正予算(第1号)]	
●教育費保育園負担金は。	◆9月から所得年度が新たになる、半年実績で決定。
●職員共済組合負担金の増は。	◆公務員の年金が厚生年金になったので変更。
●耐震改修補助で避難所等利用の打ち合わせは。	◆今後は村全体で考え検討する。
[国保会計]	
●繰越金約1,000万円、これだけ必要か。	◆再来年県に移行のため、今後1、2年で見極める。

請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	私立高校に対する公費助成をお願いする陳情書	中信地区私学助成推進協議会 会長 細田 明宏	賛成多数により、一部採択とし意見書を提出する。
総務委員会	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情書	長野県教職員組合大町北安曇支部 小谷単組 代表 川尻 年輝	全員賛成により、採択とし意見書を提出する。
総務委員会	国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する陳情書	長野県教職員組合大町北安曇支部 小谷単組 代表 川尻 年輝	全員賛成により、採択とし意見書を提出する。
経済委員会	公共事業発注および建築関連助成金事業に関する陳情書	小谷村建築業者協会 協会長 宮澤 富雄	全員賛成により、採択

採択および一部採択したものは各関係機関に意見書を送付した。

議員発議

議員提出による発議		議決結果
私立高校への公費助成に関する意見書 ・私立高校への就学支援金制度の拡充並びに経常費補助の増額を行うこと ・私立高校の教育条件改善のために施設、設備費の補助を行うこと ・私立高校の保護者負担を軽減するための学納金の補助を行うこと		可決（全員賛成）
義務教育国庫負担制度の堅持を求める意見書 ・教育の機会均等とその水準の維持向上のために必要不可欠な義務教育費国庫負担制度を堅持し、負担率を2分の1に復元すること		可決（全員賛成）
国の責任による35人学級の推進と教育予算の増減を求める意見書 ・国の責任において35人以下学級を基準とする学級を推し進めるために、義務標準法改正を含む教職員定数改善計画を策定し、実行すること。また、必要な教育条件整備を進めるために、教育予算の大幅増額を行うこと		可決（全員賛成）
議会改革特別委員会の設置について ・議員定数等調査委員会につづき、これからの議会改革推進のために議会改革特別委員会を設置し議論を深める。		可決（全員賛成）
委員長 横澤 かつ子 副委員長 曾根原 恵子 委員 高橋 正宏 委員 宮澤 正廣 委員 猪股 充拡		



委員会活動報告

総務委員会

白馬山麓環境施設組合

臨時議会

7月23日(白馬村)

小谷村議会構成の変更に伴う監査委員の選任、専決補正予算の承認。

白馬村議会総務社会委員会

との懇談

8月23日(白馬村)

白馬高校の課題や今後の構想について、両村の関係委員会で校長先生等を招いて懇談。宮澤県議、白馬村長、教育委員会等より、国際観光科の応募状況、学生寮の増設や公営塾の現状と課題を伺う。

懇談後、しろうま教育寮

の現地視察。増設検討の隣接農地や、隣地の法政大学セミナーハウスを視察。

おたり54プロジェクト
幹事会

8月24日(小谷村)

アンケート状況、ワーキンググループ、ICTの実証実験等の説明、討議。



白馬高校について懇談

白馬山麓環境施設組合
定例議会

8月25日(白馬村)

27年度決算の認定、補正予算の承認、組合の現状等報告。

国保運営協議会

8月31日(小谷村)

27年度決算、28年度予算の承認、30年度の制度改正の説明。平成30年には、財政が県に移管するため、状況を確認し検討する。

文化祭実行委員会

9月13日(小谷村)

27年度の結果報告、28年度の計画打ち合わせ。

(委員長 高橋 正宏)

経済委員会

SPF豚農場臭気調査

8月5日(白馬大池)

関係者による臭気調査日に立ち会い。規定レベル以下、臭気はなかった。頻繁に臭気被害の情報寄せられている白馬大池・梨平・坪の沢の地域住民の聞き取り調査を行った。引き続き、臭気被害対策を検討する必要がある。

一般社団法人 信州いいやま
観光局視察

9月13日(飯山市)

「道の駅」、その地域の特徴を生かしたものに重点を置き「雇用」「経済」「特産品」等の研修。

観光情報・道の駅・温泉施設・人形館など、幅広い事業展開により飯山の魅力を発信している。

北陸新幹線飯山駅構内の観光交流センターでは、周辺9市町村「信越自然郷」の観光情報とアウトドアの情報提供、自転車やトレッキング用品等のレンタル店が併設されている。



飯山駅・観光交流センター レンタル店

道の駅「花の駅千曲川」

9月13日(飯山市)

施設は飯山の街並みを再現し信州産の木材をふんだんに使用した施設。



道の駅は「結ぶ、繋ぐ、育む」の拠点

道の駅「ファームス木島平」

9月13日(木島平村)

有機の里づくりを推進し木島平村は全国指折りのブランド米の販路を自ら作り出した。「結ぶ、繋ぐ、育む」の拠点である。村の農産物を使った特産品に取り組み、六次産業化に互産互消を活かした、人と人とのつながり、交流人口の拡大で、地域づくりを目指している。

(委員長 宮澤 正廣)

加工・貯蔵施設等の整備事業は



横澤かつ子 議員

貯蔵施設計画は。

問

村長 農産物、加工品や貯蔵品の種類・

貯蔵規模の検討や貯蔵方法として、常温・冷温・冷凍のほか、原材料や加工品を劣化させない急速冷凍の新技术導入の研究を現在行っている。

問

運営計画は。

答

村長 加工貯蔵施設の検討と並行して、

全体の取りまとめをサポートする外部からの専門家をアドバイザーとして経営計画の策定を進めている。荒廃農地の利活用対策は。

問

村長 村としてうどの栽培振興をさらに

進めて荒廃農地の利活用対策の一つとなればと考える。

ている。

今後の施設整備計画について年度別に伺う。

問

村長 平成29年度は設計、30年度は建設

工事、31年度オープンを目標としている。

白馬高校の支援事業について

問

寮について増設、または新築等の検討をしているか。

答

村長 27年度に整備した寮は、最大収容人数が15名超であるから来年度以降も寮の受け入れ体制を整備する必要がある。

問

寮生の定数について。

答

村長 白馬・小谷両村の負担を考えると1学年15名が妥当な数字と考えている。今後、高校や

県教育委員会と検討して早い方向を出していきたい。

問

寮の整備方針。平成29年度の入学生を受

け入れるための措置は。

村長 既存寮に隣接する法政大学セミナーハウスの一部を借用し、

新入寮生を入寮させる案がでている。

セミナーハウスを買い取り、敷地内に女子寮を新築する案。セミナーハウスの借用について、すでに大学側へ申し入れをしている。

大学側は10月ごろに結果を出すとのこと。今後も交渉を進めていきたい。

問

公営塾について。

答

村長 講師は3名雇用し、現在50名近い生徒が受講している。当初の個別学習では人的、物理的に対応できない状況となってきた。学年を分けて集

団講義を実施している。来年度以降は受講生のレベルに応じて「基礎コース」と「進学コース」を設ける。

問

旅行業の取得や卒業の出口保障について。

答

村長 英語力をつけることを重点にカリキュラムが組まれているため、旅行業の資格を取る授業は行っていない。

問

白馬高校支援の収支明細について両村民は注視している。

答

村長 事務局は現在、白馬村教育委員会の課長と事務員が兼務で当たっている。今後寮生、公営塾も増えることもあり、専門の事務局体制を来年度をめどに設置することを検討していく。

問

加工施設計画は。

村長 山菜加工場の漬物商品(小谷漬け)山ウドの木の葉漬けを主軸とし、村内製造者、また、新たな商品として、そばおやき、レトルト商品、パッパ商品の製造設備を検討中だ。

問

現在の事業の取り組み状況を伺う。

村長 大北農業協同組合、道の駅おたり、小谷村の3者が連携して事業を進める方向で検討、話し合いを進めている。



おたり特産品ドレッシング

林業、森林行政について



小池 利治 議員

問 多くの森林資源は活用の時期を迎えていると言われているが、産業として林業木材価格は長期低迷を余儀なくされ、荒廃が進行している。

森林整備、造林のコスト対策には、国や県の交付金頼りになるなど、多くの課題を抱えている。

長期にわたり育ててきた森林を、健全な循環森林資源として次世代に引き継ぐための森林再生には、村の役割はますます重要と考える。具体的に森林復興策にどのような取り組みか。

答 村長 戦後の国策として村内でも針葉樹、杉、唐松等の製造が進

められてきたが、現時点では木材価格が低く、伐採や搬出費用の方が高くなり活路が見いだせない状況にある。村に多く存在する村有林、民有林を含め補助事業を導入して広範囲の間伐等の管理を行うことも可能であるが、この場合、森林を集約化し一つの団地として計画する「森林経営計画」を策定し、事業採択を申請していくことになり、土地所有者全員の承諾が必要であることや、その後の収益に結び付く可能性が少ないなか、受益者の負担が生じる場合があるなど課題も抱えており、十分な調整と検討が必要である。

一方で村内には多くの広葉樹林もあり、これからの活用についてその一つがキハダの振興で、東日本大震災により出荷ルートが途絶えていたが、県の協力によ

り取り引きが始まり、これまであまり利用されなかった黄檗をはいだ後の木そのものの活用の研究、その他にもイタヤカエデ等から採取した樹液からできるメープルシロップづくりや、森林セラピー基地としての活用などを含め、樹種の特徴を活かした森林活用をしていきたいと思う。



キハダの皮剥ぎ体験

問 森林、木育教育等の取り組み状況はどのようなか。

答 教育長 小学校3年生対象として大北地区の植樹祭の全員参加、中学校では1年生対象として木材の特徴を教えるべく、森林に触れる。木材の

有効利用、貴重な資源を大事にすることを学習している。

福祉サービスについて

問 社会福祉協議会の介護サービスについて、今後、長期的に事業展開のできる支援、指導など関りは。

答 村長 介護保険報酬の引き下げにより、各サービス提供事業所の負担増加は否めないが、できる限り住み慣れた地域での暮らしを果たす目的を事業所間で共有している。サービズに頼ることから、専門性と住民性を活かした支え合いの仕組みづくりを目指している。介護保険制度に頼りすぎることなく、高齢者も、支えられる側から、支える側になるなどの視点が重要となるため、既存の支え合いの仕組みに専門性を合わせていきながら、一人一人の生活に目を向ける必要がある。

福祉事業所の役割を明確にしながら、村内全域の取り組みとして事業所の垣根を越えた見直し体制を図っていきたいと考えている。地域の福祉を確保していくためには、それぞれの事業所が健全に機能していくことが必要である。

社会福祉協議会は社会福祉法人の団体であり、民間としての独自性を保ちながら活動を推進することを期待すると共に、地域に欠かすことのできない事業所として、必要なサービズについては確保できるように村としても引き続き支援していく。



植えて、育て、利用する

地域コミュニティの維持と生活対応について



藤原 賢司 議員

であるから、5年後、10年後は無論のこと各年度での検証を重ね事業展開に反映させることになっている。

問 行政区の合併が検討され久しいが、今後、限界行政区のコミュニティ機能をどのように維持していくのか、今後の対応は。

答 村長 集落単独でのコミュニティ維持が困難となり、本年4月から瑞穂集落と長崎集落が「瑞穂長崎集落」として一つになった。

総合戦略では、「地域コミュニティの維持」を掲げ、4つの基本目標を定め、11の講じるべき施策の方向を立てている。これらを基本に「地域コミュニティの維持」ができるようさまざまな事業展開をしていきたい。

答 村長 地域別（大字ごと）、生産年齢人口、老年人口、年少人口について、国勢調査および住民基本台帳数値により平成22年までを分析した結果、自然増減（出生数・死亡数）、社会増減（転入数・転出数）ともにマイナスが続いている。総合戦略は見直しが可能

問 小谷村の限界集落地域や、今後そういった、限界集落の増加する数の予測は行っているのか、行っているとしたら、最終的には合併も含め幾つの集落となることを予測しているのか。

答 村長 限界集落地域が増える数の予測や合併の集落数は調べていないが、現在53集落中10世帯以下の集落は、南小谷地区で22集落中4集落、中土地区で21集落中14集落、北小谷地区では、10集落中5集落で、これからも徐々に世帯が減っていくと推定する。

問 限界集落の中の独居高齢者や超高齢者宅に対する安全対策や、買い物難民対策や、医療介護対策など、生活していくための対応策についての考えは。

答 村長 分野別ワーキンググループを立ち上げ、具体的な検討を進める中で「生活支援サービス

検討ワーキング」において、「54集落で安心して生活を続けられる環境づくり」をテーマに検討を進める予定であり、検討結果を本年度末に策定する「小谷版小さな拠点」全体計画へ反映させていく予定だ。

また、村民アンケートの集計・分析を行い、小谷村のニーズに合った、暮らししていくために必要な生活支援サービス等の提供体制を構築していく。

問 これからは生活用品は無論のこと、食品もネットショッピングを活用する時代になることは予測できるが、現状は移動購買車を利用するか、車で対応できる人は村外、県外に出向き購入する。これらは物流や販売量を考えた場合仕方ないと思うが、小谷村の今後の商業環境対策についての考えは。

答 村長 小谷村で暮らししていく上で生活用

品をどのように購入するか、暮らしを守っていくかは今後の重要な課題であり、村内の消費拡大による地域内経済循環の課題と併せ、経営者の高齢化による後継者が継業の課題など、検討が必要な時期にきていると認識しており、対策など話し合いを進めていきたい。

村では本年度、大北農業協同組合の移動購買車購入費用に対し1/2補助をした。村民の生活用品購入の利便性が高まることを期待している。

また、「小谷版小さな拠点構築に向けた検討では、「地域公共交通再編検討ワーキング」を立ち上げ、「村営バス・スクールバス、デマンドタクシー、福祉有償運送、買い物支援サービス等の整理と再編」をテーマに検討を進め、生活用品の買い物での公共交通を利用した生活支援を含め、利便性の高い公共交通体制を構築したいと考えている。

新たな教育環境について



高橋 正宏 議員

問 おたり学校園運営委員会を設置、コミュニケーションスクールが立ち上がった。

教育環境の変化に対する課題や今後の予定を伺う。

①小谷版コミュニケーションスクールの目標や特徴は。

②小谷村のような子ども数の少ない地域には、私営の塾も少なく、公営塾の設立は期待されていたものと思うが、現状の進展は。

③学校と地域の関わり合いが増えてくると、学校周辺の環境整備も進むと思われるが、対応は。

答 教育長 ①目標は、保・小・中が連携し、

さまざまな活動に地域の皆さまから参加していただける体制づくりで、村全体で保・小・中の運営全般について支援していただけるようになることが目標。

12年間の連携教育を縦軸に「地域との連携」を横軸とした学校園の運営および活動を目指していきたい。



うっそうとした裏山

②英会話の習得などを目的に、昨年から公営おたり塾「英会話教室」の名称で開設した。

27年度は、69回開催。28年度は小谷小で低学年と高学年を別にし、受講料千円（学期ごと）で、10月以降は、外国人講師の充実を図る予定。

英会話の他に小学生を対象に科学実験教室も開催、28年度も5回実施予定。

29年度からは算数や数学が学べる公営塾の開催についても検討する。

③学校周辺の環境整備は、小学校では年4回で、いずれか2回はPTAに、中学校は、年2回の作業を、保育園は年2回のうち1回の参加をお願いしている。

支援をしていただいている方は約20団体で、内容も、「読み聞かせ」から「食育関係」、「遠足の補助や案内」、「登下校時の見守り」など、多岐にわたっている。

新規にお手伝いいただける方は、支援メンバーとして登録をお願いしたい。

今後、村民の協力を呼びかけていく。

問 小学校や保育園の裏山は、私有地だと思

うが、うっそうとしている。雪崩が起きない程度に間伐や下草刈りができないか。

答 村長 間伐は済んでいるが、そのような意見が多ければ考える。

社会福祉協議会の27年度事業報告について

問 27年度は、介護報酬の引き下げや、利用者の減により、大幅な減収との報告だが、今後の対策や展望はどうか。

答 村長 昨年度と今年度を比較すると、デイサービスは増、ホームヘルプサービスは微減、ケアマネジメント利用は同数。

デイサービスがプラスなので、大きな赤字にはならないと考える。

利用者数の回復の原因は特定できていない。



改革が望まれる社会福祉事業

ケアマネージャー1名を村にアウトソーシングしていただき、仕事量の適正化と、ホームヘルプサービスの常勤3人を配置基準である、2.5人体制にし、収益の改善を見込んでいる。

ホームヘルプサービスは、「小さな拠点事業」におけるコンサルタントの状況調査で、供給体制が過剰との意見もあり、今後検討。

来年度から始まる「新しい総合事業」と、本年度予定されている「社会福祉法人制度改正」への対応を重点項目として進める。

実行段階に入った 総合戦略の進捗状況



曾根原恵子 議員

総合戦略 住民参加の構築を

問 村民アンケートを政策形成にどう生かすか。

答 村長 「生活ニーズ調査」の回答率は55%、委託業者による集計分析を行い、協議会での検討に生かし、全体計画を作る。職員の配置、協議会の運営体制、進捗状況はどうか。

答 村長 村長が会長、JA支所長が副、委員6名、幹事15名で組織。事務局は特産推進室で担う。

現在2回開催、今後は分野別のワーキンググループを立ち上げ、全体計画を作る。

小さな拠点 ICT基盤 モデル事業とは

問 タブレット端末を使ったモデル実証実験を大網地区で行う。準備状況はどうか。

答 村長 見守り・移送・買い物物・配食など各種サービスの通信システム整備を検討中だ。医療・福祉・診療所連携機能の変更により、開始が延期となっているが、全体計画策定に影響はない。

答 村長 各種サービスの実現には人材確保が必要だが、運営と雇用の構想は。村長 生活支援・介護・医療の連携・公

共交通体制など、福祉部門と収益部門を一体的に運営する。今後、事業の仮設定を検討し、事業規模と運営体制構築の中で人材と雇用が決まる。

問 今年度モデル実証は、地方創生交付金約5千万円が事業費。今後の財源確保をどうするか。

答 村長 来年度以降の年度別事業計画を作成し、国に申請し認定を受ける。

地域農業を育てる 村農政のかたち

問 生業としての農業、10年後の集落を見据えた展望が必要だ。農政の考えを伺う。

答 村長 経営拡大や就農者には補助制度で生業を応援する。自家消費米の生産者には、電気柵補助・基盤整備の重機貸付・資材費補助を継続し、集落周辺の里山環境を守る。水稲作面積は約91ha。主食用

米自給には約37haと試算すると自給分は充分確保できているが、今後も耕作意欲の支援を続ける。

問 後継者の育成と計画生産には、農業再生協議会の強化が必要だ。加工貯蔵施設新設に向けて農地利用調整も求められるのでは。

答 村長 生産従事者と生産物の安定確保が最重要課題だ。作付け計画をしなければならぬ。今年度は山ウド栽培の転作交付金を設定する。農業従事者は、短期的には地域おこし協力隊の育成も考えられるが、将来的には農地の取得など農地法にかかわる検討が必要になる。

子育て支援 給食費補助制度の拡充を

問 給食費無償化自治体が増加している。子どもの貧困が深刻ななか、補助を考えざるを得ない状況の現れだ。少子化対策として村も支援拡充を。

答 村長 県内では天龍村・売木村が全額補助を実施している。半額補助は6町村で実施。村もさまざまな子育て支援策を講じている。給食費補助の拡充については、今後消費税増税が実施されるなら、その時に検討したい。

問 保育園入所手続き時、保育必要量の認定等で保護者への負担が生じない配慮がされているか。

答 教育長 3歳頃までは保護者の養育が一番望ましいと考える。未満児の入所手続時、入所基準書類の提出で認定し、厳しい認定審査をすることはない。



ささまつり ー 元気に育てよ!

通年観光及び国際的山岳 観光地の今後について



猪股 充拓 議員

問

①全国的にも有名で人気の高い山々がある小谷村。特に雨飾山・風吹・柵池天狗原く乗鞍く白馬大池ルートが人気だが、どのルートもこれからの時代に合わせた整備と補修が必要。

天狗原辺りや雨飾山ルートに簡易トイレがあれば今まで以上に登山者、特に高齢者や女性に優しく清潔な山を提供できる。積極的な取り組みを。

②小谷村の観光は夏季が弱点。グリーンシーズンの観光には、自然十施設十アクティビティを要求されてい

るが、小谷村は施設とアクティビティが充実していない。

県観光課には、この地域にこんな施設があればどのくらいの集客および経済効果があるか試算できると聞いている。県との連携により施設、企画、宣伝が効率的にリスクを少なくできるか検証しながら観光立村を目指すべきである。

答

村長 ①本年度から国民の祝日「山の日」が制定され、山岳観光への関心が高まり、今後の登山客等の増加に期待が寄せられるところである。

議員のご指摘のように登山道の修繕整備を必要とされている箇所が多くあること、また雨飾山等長時間の登山に対応する公衆トイレ

の不足は、かねてからの課題である。また、登山道ばかりでなく、柵池自然園の木道等の大規模修繕が必要な時期にきている。

登山道の修繕では、本年度柵池自然園の上部、天狗原の湿原で国立公園整備事業（国の直轄施工委任工事で長野県が事業主体）として木道の改修工事約100メートル、土壌流出による湿原の浸食を防ぐための工事が9月連休明けから着手となる。

公衆トイレの関係では、景観に配慮して場所の選定や設置後の掃除や汲み取りなどの維持管理に課題があり、本年度、環境省の協力を得て試験的に雨飾山登山ルートへ携帯トイレ用のテント型簡易トイレを設置する。携帯トイレが普及するよう広報に努めていきたいと考えている。山岳観光の施設整備には県や国の補助金を期待したいところであり、過日は県議会環境産業

観光委員会に対し、補助金拡充等要望をしたところであるが、早急な補助金の大幅増額は望めないと考えている。現在多くの方から「ふるさと応援寄付」をいただいているが、ふるさと応援寄付では、寄付金の使用目的を定め、その目的に對していただいております。登山道整備や公衆トイレの整備など「山岳環境保全に関する目的項目」を新たに定め、財源としていくことを検討し、来年度から実施したいと考えている。

観光委員会に対し、補助金拡充等要望をしたところであるが、早急な補助金の大幅増額は望めないと考えている。現在多くの方から「ふるさと応援寄付」をいただいているが、ふるさと応援寄付では、寄付金の使用目的を定め、その目的に對していただいております。登山道整備や公衆トイレの整備など「山岳環境保全に関する目的項目」を新たに定め、財源としていくことを検討し、来年度から実施したいと考えている。

答

村長 ②村の観光入込客数における全体の約6割は4月～11月であり、これまで特に7月～8月にかけて集客できていたが、ここ数年夏季トップシーズンの入込が減少している状況である。山岳観光を中心としていることから、天候に大きく左右されると

おりお客様のニーズの変化も

要因の一つと考えている。施設については、これまでもグラウンド整備や体育館などによる学生の運動部の誘致、実業団の誘致などの話はあったが、基本的には施設の維持管理、稼働率など総合的に考慮すれば、1村のみの単独で造ることは現実的ではないと考えている。他村との施設の重複を防ぐなど広域的な整備を考えていきたいと思う。

アクティビティに関しては、まず地元にある自然や地形など特徴を活かした展開が必要であり、現在民間による自転車事業・シャワークライミング・パラグライダー・農業体験などの遊びや体験ができるが、さらに何が必要か、それは可能か調査のうえ具体的な意見をいただきたいと思う。県との連携はもとより村では地元の要望、またその集約が必要であり、そのうえで県への要望や村が何を支援できるか検討したいと思う。

わたしのひまわり



国鉄色! 旧特急「あずさ」

南雨中 石川 千朗

お店の仕事では、挨拶をするのが楽しい。

月曜から金曜の午前はこんなふう。村営バス運転手、登校見守りのSさん、徒歩通学の小・中学生、JR通勤のホテル従業員・送迎バスのドライバー、保育園児。お母さんと乗車補助員、授産所に通う方々、白馬クロスロードのみなさん。夜勤後帰宅のJRスタッフ、電力会社河川パトロールさん。合間に自動販売機の補充と拭き掃除、業者さんに注文のFAXを流す。週刊誌等の開封と店頭陳列、冬には除雪も仕事に加わる。

お馴染みさんがたばこを買いに、JRの接続待ちを待って余すお客様の愚痴を聞き、村営バス接続の案内をさせていただけます。

ある日のこと、50代?のご夫婦に写真撮影をお願いされました。「これと同じアングルで、背景に特急あずさを」と一枚の写真を見せて。えっ若い!お二人の30数年前の姿が!あずさも懐かしいパールオレンジの国鉄色!新婚当時の写真です。以来、小谷村にお運びいただくご縁がなく、30数年ぶり訪れて同じアングルで撮ることに。「おしゃれだなあ」「リアルなタイムマシンだなあ」「時間が過ぎるって、こういうことか」感慨がよぎりました。デジカメ映像を確認し彼曰く「上が空きすぎだ、後で修正しよう」。写真の腕を上げて、「ということでしょうね。」

子どもたちと親しむ

千国 宮嶋 朱美

小谷村に住んで10年、わが子も小学生と保育園児、四季を感じながら小谷を満喫しています。

私は、子どもと関わる仕事が好きで、園児から中学生の水泳指導をしています。小谷っ子とのふれあいがとても楽しくてしかたありません。村内に遊び場、体を動かす場があり、ありがたいと思っています。



少子化で近所での遊びができにくくなって、今、放課後活動が重要です。学校保健委員会のデータでは、運動に関わりをもたな

い子が増加との報告もあります。校外活動では、体操教室やサッカー・英会話教室などがあります。私が関わっている幼児水泳教室ドルフィン・アクアスポーツ少年団も、心身の成長・遊びの場・マナーを身につける場となっています。それぞれの活動が継続できているのも、家庭・村民・各施設のみなさんのご協力があるからです。サークル活動

は、子どもたちと地域の方々との繋がりをより深くし、心身の成長にとともに、心身の成長にとともにい事。もっとできることはないかと考えています。地域の方々とは小谷っ子がふれあい、人とひとが繋がります。小谷のよさを知り、再確認できたら、小谷の未来は明るいと思います。

村の施設を有効利用し、成長をサポートする環境づくりができたらいですね。みなさん、小谷っ子たちと小谷暮らしを楽しみませんか?

編集後記

9月の定例議会では、決算が提案され審議、みなさんからいただいている要求が具体化されたか、予算がどう使われたか、全体の分析も欠かせません。決算で明らかになった問題を来年度の予算編成に生かされなければならぬのでとても緊張します。

4月の当初予算に間に合わなかった住民要求や、不況対策、災害対策など、緊急な問題が生じたときには補正予算で対応することも可能です。

今年度予算では「小さな拠点」事業が重点施策。

「多くの情報」「読みたくなる議会報」を心掛けていますが、まだ工夫不足。記事を話題に、近くの議員にお声をかけていただけましたら幸いです。

(曾根原 恵子 記)